

祝・国立女性教育会館開館 40 周年に寄せて

新潟県

茨木 むつ子（いばらき むつこ） 67 歳

平成 9 年 4 月、教員であった私に県生涯学習推進課・副参事の辞令が出ました。行政に所属することも成人教育や婦人教育に関わることも初めてのことでした。何をすればよいのか先が見えないまま、県庁 16 階で右往左往しながらの 1 カ月余が過ぎていきました。

そして 5 月末、「平成 9 年度婦人教育・家庭教育・ボランティア行政担当者会議」に派遣されたのです。初めての県外出張、初めての国立婦人教育会館でした。

1 泊 2 日の担当者会議は、「婦人教育・家庭教育・ボランティア活動に関する最近の動向」「生涯学習審議会の概要」「国の政策説明」「活動事例報告」と続きました。全日程を通して夢中で話を聴きメモを取りました。このノートは A5 判 14 ページにもなりました。国の担当官の説明や各県担当者の話を聞いていると、県の婦人教育担当としての勉強不足を痛感させられました。同時にここでは私は貴重なものを得ていました。帰郷してからの職務に、担当者会議の記録ノートや、会館でつながった国・各県担当者とのネットワークが大きな助けとなったのです。更には、担当者会議に参加したことで、自分に課せられた仕事の方向性が見えてきました。このように嵐山・国立女性教育会館は、県の婦人教育担当としての私、その後の私にとってスタート地点でもあり貴重な拠り所ともなったのでした。

男女共同参画社会形成の促進に資することを目的とした国立女性教育会館の果たす役割はますます大きくなっています。国立女性教育会館の一層の充実・発展と、スタッフの皆さまのご健勝・ご活躍を心より祈念いたしております。